


和歌山県内経済情勢報告

(令和5年7月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直している」(判断を上方修正)






項目	前回(5年4月判断)	今回(5年7月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している	

(注) 令和5年7月判断は、前回5年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しているほか、雇用情勢は、持ち直しつつあるなど、全体としては、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回(5年4月判断)	今回(5年7月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
設備投資	4年度は前年度を下回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	5年度は増益見込み	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、値上げの影響などから飲食料品の売上が増加しているほか、外出機会の増加から衣料品や身の回り品の売上が増加している。

コンビニエンスストア販売は、人流の増加により観光地の店舗を中心に来店客数が増加していることなどから、売上が増加している。

ドラッグストア販売は、外出機会の増加などから化粧品や湿布などの医薬品の売上が増加しており、堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、物価高の影響から低価格帯の製品に需要が流れており、売上が減少している。

乗用車の新車登録届出台数は、新車供給台数が増加していることから普通車・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、感染症の5類移行の影響などから観光客数が増加している。また、水際対策の緩和を受け、外国人観光客数が増加している。

(主なヒアリング結果)

- 来店客数、買い上げ点数は減少しているものの、飲食料品などの生活必需品は買い控えに限界があることなどから、前期ほど買い控えの動きは強くない。また、値上げによる商品価格の上昇が続いており、客単価は上昇していることから、売上高は増加。(百貨店・スーパー)
- 旅行やイベントなど外出機会の増加の影響で、衣料品や身の回り品の好調が継続。5月以降、顧客が大阪市内に流れたことや6月上旬の豪雨の影響で弱い動きとなったが、足下売上は戻ってきている。(百貨店・スーパー)
- 前期に引き続き、観光客やインバウンドの増加で売上は好調。海水浴やキャンプなど夏に向けて需要は増加傾向にある。(コンビニエンスストア)
- 感染症収束に伴う外出機会の増加や値上げをしていないことから化粧品の売上が増加しているほか、医薬品についても外でのケガ等が増え、湿布の需要が出てきていることから売上が増加している。(ドラッグストア)
- 電気代の値上がりにより、多少値段が高くても省エネ性能が高い家電を求める客は一定数いるものの、物価高の影響から冷蔵庫や洗濯機は展示品や型落ちなどで安くなっているものを求める客が多くなっている。(家電大型専門店)
- 部品供給不足の緩和により生産が回復してきたことから、新車供給台数が増加し、積みあがった受注残をさばけるようになってきている。(自動車販売店)
- 外国人観光客数について、渡航規制がなくなってきたことから増加してきており、おおむねコロナ禍前の水準まで戻ってきている。(公共団体)
- 感染症の影響が無くなったことから前年比で来店客数、売上ともに増加している。(飲食店)

■ **生産活動** 「持ち直している」

鉱工業生産指数でみると、「機械工業」などは低下しているものの、「化学工業」や「鉄鋼業」などは上昇している。

企業からは、部品不足の解消が進んでいることから生産が増加しているとの声が聞かれており、生産活動は、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 海外地域での需要は堅調に推移しており、特に今期は中国においてアフターコロナの段階となったことから個人消費や生産活動が回復し、設備投資需要が高まっている。また、受注残は高水準であるものの、部材不足の解消により、生産量は増加傾向となっている。(生産用機械)
- 昨年は部品不足の影響で月々の生産量にムラがあったものの、今期は昨年よりも部品不足の緩和が進んでいることから計画通りに生産できている。(業務用機械)
- PC関連製品の需要は減少しているものの、衣料用洗剤や柔軟剤については、既存製品の機能を高めた新製品を出せていることから需要は高まっており、生産量は増加傾向にある。(化学)
- 建築関連製品について、使用される物件が減少していることから出荷量は減少している。一方、エネルギー関連製品については、中東を中心に需要が堅調であるほか、中国からの受注が増えていることから生産量が増加している。(鉄鋼)
- 主力である自動車用部品について、半導体部品の供給正常化に伴い自動車生産が回復してきたことから、メーカーからの発注が安定してきており、生産量が増加している。(輸送用機械)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

新規求人数（5年5月）は、前月と比べ減少しているものの、有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移しており、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 「建設業」について、公共事業数が少ないほか、物価高や原材料高の影響により利益が減少していることから、人手を確保する余裕がなくなっている。また、「宿泊業、飲食サービス業」について、3月は全国旅行支援の影響で宿泊業の新規求人数は増加していたが、5月はその反動で新規求人数は減少している。（公的機関）
- 生産量が増加していることもあり、製造ラインや研究職、検査部門などで人員が不足している。（化学）
- 現在外国人労働者を4名雇っている。外国人労働者を雇わなければ仕事が回らないというほど人手不足感があるわけではないが、将来的に外国人労働力に頼る必要が出た場合、外国人労働者を採用した経験が活きたと考えており、お互いが学びながら協働している。（業務用機械）
- 正規、非正規問わず人員不足の状況が続いていたが、数店舗閉店したことから現状の人員である程度店を回せるようになった。（飲食店）
- 部署によっては、人手が足りておらず、常に中途採用は募集しているが、なかなか応募がない。不動産業は資格や業界の知識が必要な特殊な業種であるため、すぐ働ける中途採用が中心になっている。（不動産）

■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和5年4～6月期調査）でみると、5年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業で前年度を下回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査（令和5年4～6月期調査）でみると、5年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で黒字転化となっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数（3ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、持家、貸家、分譲のすべてで前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回る」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、県で前年を上回っているものの、国、市町村、独立行政法人等で前年を下回っている。

■ 企業倒産 「倒産件数、負債総額ともに前年を下回っている」

倒産件数、負債総額ともに前年を下回っている。

■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和5年4～6月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、非製造業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、製造業は「下降」超となっている。

規模別では、大企業で「上昇」超となっているものの、中堅企業、中小企業で「下降」超となっている。